



城北小だより

3月号

令和6年2月29日
さいたま市立城北小学校
TEL 048-757-5391
児童数701名

◇学校教育目標◇

「考える子 思いやりのある子 がんばりぬく子」

小さな成長の積み重ねが大きな成長に

校長 中村 篤

2月5日の昼頃からさいたま市でも雪が降り始め、翌朝にはかなりの積雪となりました。有志の教職員が、児童が登校時に通る場所の雪かきを朝早くから行ってくれ、教職員の心配りに感謝するとともに、けがや事故もなく児童が無事に登校できたことにほっとしました。残念ながら正門を入れてすぐ右側にあった大きな花桃の木が雪の重みで根元から倒れてしまいましたが、幸いなことに他の施設には被害はありませんでした。この日とても感心したことがありました。それは下駄箱の使い方です。普段はくつが片方だけ落ちていたり、くつが無造作に突っ込まれたりしていることが多いのですが、この日は下駄箱の上に整然とたくさんの長靴が並べられていました。何ということのない出来事ですが、子どもたちのちょっとした成長を感じることができました。

2月14日は3年生が七輪体験をしました。ほとんどの子が七輪を見るのも初めてで、炭に火をつけるのに四苦八苦していました。マッチに火をつけたのはいいものの、マッチの頭を下にするので手の方に火が迫ってきてすぐにマッチを手から離してしまいます。そこで、マッチの頭を上によればすぐには燃え尽きないということを教えてもらい、再チャレンジ。今度はあちらこちらから「炭に全然火がつかないよ」という声があがります。火をおこすための新聞紙は固く丸めれば長く燃えること、新聞紙に隙間をあけて木材や炭をくべるとよく燃えることなど、いろいろなコツを覚えました。「うちわで七輪の下にある穴をあおぐとよく燃えるのはなぜだろう？」という私の問いかけに対してもしっかりと理由を考えていました。七輪で火をおこすだけの活動ですが、この体験を通して座学では知ることのできないたくさんの学びを得ることができたと思います。最後は皆でお餅を焼いて、おいしくいただきました。子どもたちの満足そうな笑顔がとても素敵でした。



本校では特色のある教育活動の一つとして、4年生G・S探究の時間で「くつプロジェクト」という取組を行っています。NPO法人SB.Heart Stationを通して、諸外国の裸足の子どもたちへ「くつ」と「文房具」を贈る活動です。4年生の実行委員が中心となり、1月中の1週間、毎朝昇降口の前に立って全校児童へ寄附を呼び掛け続けました。その結果、くつ78足、鉛筆301本、洋服64着、ノート45冊、ランドセル2個、その他（クレヨン、消しゴムなど）96個、合計586もの物品が集まりました。2月26日には物品の引渡式を行い、NPO法人の方に無事に引き渡すことができました。今回はフィリピンの子どもたちに贈られます。フィリピンではくつを持っていない子どもがたくさんおり、普段は裸足やビーチサンダルで過ごしているそうです。このくつプロジェクトが、世界の恵まれない地域に目を向け、自分たちができる支援について考えるきっかけとなってくれたらと思います。寄付へのご協力をいただき、ありがとうございました。



子どもたちは、こうした日々の学校生活での小さな成長の積み重ねにより、この一年間で確実に大きく成長しました。ご家庭でも一年間を振り返り、お子様ができるようになったことをたくさんほめ、また、新しい学年に向けて励ましの言葉をかけてくださいますようお願いいたします。